

ふるさと人物伝2

香月泰男 6

次建中

昭和11年(一九三六年)5月
香月泰男は
北海道
倶知安中学校
(現倶知安高校)に
美術教師として
赴任しました

しかし
イロツバ絵画を
根底から捕えようと
試みたとき
私はそこに
あまりにも大きな
伝説の重みを見て
絶対させざるを
えない

同年10月
美術学校
卒業制作の
二人座像が
文部省美術
展覧会鑑査展に
初入選します

日本に生まれ
育った私に
西洋的な油絵を
描けるわけが
ないことを
知らされた

しかし泰男は
倶知安中学校に
赴任したころから
制作上の迷いによる
ひどいスランプに
おそわれていました

自分が進むべき
方向の模索が
一番の難所に
さしかかっていた
時期でした

北海道の冬は
山口県出身の
泰男には
かなりこたえた
ようです

加えて
このころ
配属将校が
いばりだした
中学校に
嫌気がさして
きました

ここに
長くいる
つもりは
ない……

昭和12年(一九三七年)秋
中学のときの
恩師から
下関の
女学校で
美術の教師を
求めている
マユミに
来ては
どうか

下関方面
郷里にも
近い
渡りに
舟とは
このことだ

昭和13年1月
下関高等女学校
(現下関南高校)に
転任します

赴任の途中
山口市の
叔父の家に
立ち寄り
泰男が
いい話
がある

実は
おまへの
女房に
ほりそうな
女性がいる

はあ……

どうかね
……?

どんな女性か
知らないが
第三者の叔父が
釣り合うと
いうのだから
釣り合うのだ
ろう

叔父さん
ひとつ
よろしく
お願いします

よし!
わした
まかせて
おけ